

厚生労働省行政事業レビュー講評 議事概要

1. 日 時

平成 28 年 8 月 31 日（水） 17 : 30 ~ 18 : 00

2. 場 所

厚生労働省専用第 14 会議室

3. 出 席 者

外部有識者：井出委員、大屋委員、河村委員、栗原委員、佐藤委員、横田委員

厚生労働省：堀内厚生労働大臣政務官、総括審議官（行政改革推進室長）、大臣官房
会計課長、会計企画官、政策評価官

4. 議 事 内 容

（議題）平成 28 年度行政事業レビュー講評

厚生労働省から平成 28 年度公開プロセス対象事業の点検結果、平成 28 年度外部有識者点検対象事業の点検結果について説明。その後、外部有識者から平成 28 年度行政事業レビューの取組を踏まえた改善点等について講評。

なお、外部有識者からの主な講評の内容は次のとおり。

- 概算要求を行うにあたり、行政事業レビューを通して、一度立ち止まって事業の必要性や資金の流れ等について考えることは非常に大切であるため、今後も継続してレビューしてほしい。
- 事業所管部局によって、予算の執行や調達、レビューシートの書き方などについて温度差があると思われるので、引き続きチェック等が必要である。
- 公開プロセスの評価に対する検討の結果や、書面審査の指摘に対する対応など、全体的に真摯に対応していたと認識している。
- 税金以外を原資として実施している事業について、PDCA サイクルや事業の効率性・有効性についてやや甘く認識しているものが見受けられた。対象業界が自ら実施するのではなく、国に一度お金をあずけて、国の事業として実施することの意味、意義、必要性について認識し、効率性・有効性について強い意識を持って取り組んでほしい。

- 公開プロセスの事業の選定から本番、本日の講評まで、前向きに取り組んでいた。
- 行政事業レビューの取組は、廃止・見直し等の評価の数や、概算要求の反映額の多寡などでは表れない効果もあるので、様々な視点をつきあわせて効率的にお金を使っていけるよう、今後も前向きに取り組んでほしい。
- 公開プロセスの対象事業の選定について、今年度より、参画する外部有識者全員が集まって選定するようになった。事業選定の透明性や議論の効率性が高まったのでよかったと思っている。
- 公開プロセスを実施するにあたり、現地視察は有効であるので、議論を深めるためにも、より多くの視察の機会を設けてほしい。
- アウトカム、アウトプット指標について、適切な指標を設定できれば、より効果的・効率的にレビューを実施できるので留意してほしい。
- 1つの事業をレビューする際に、類似施策も含めた全体像が把握しにくいので、関連する事業をよりわかるようにしてほしい。
- 特別会計の事業であったとしても、その原資は、保険料であれ、税金であれ国民のお金であるので、適正な執行と適正な事業展開を心がけるべきある。
- 事業の点検に際しては、事業の目的のみではなく、エビデンスベースで評価を行う必要がある。
- 地方自治体と協力して、実態把握をしっかりと行った上で事業展開してほしい。
- 公開プロセスの事業の選定については、もっと予算規模が大きく、着目すべき観点がある事業を候補としてほしい。
- 行政事業レビューはレビューシートに基づいて評価するのが前提であるので、レビューシートに基づいて説明するようにしてほしい。
- レビューシートについて、関連事業や経済財政アクションプログラムの項目、終了年度等について記載漏れのないように徹底してほしい。
- 行政事業レビューは無駄を削減することのみが目的ではないため、真に予算が必要であるものは、予算増も含めて検討すべきであるといった評価も行うべきである。メリハリのあるお金の使い方が肝要である。